



Q 68歳男性。40代後半から右足付け根から、

赤ちやんが泣くと出る「脱腸」のようなものができ、だんだん大きくなり、ぶら下がるようになりました。痛みなどの症状はありませんが、心配です。

△回答▽

みやぎぎ外科・ヘルニア

クリニック(札幌市中央区)

宮崎 恭介さん



左右の脚の付け根を鼠径部そけいぶといい、ここが大きくぶら下がる病気は鼠径ヘルニアです。加齢や力仕事などが原因で腹壁が弱くなって穴が開き、おなかの中に収まっている腸が、腹圧のかけりやすい鼠径部から睾丸たん丸に飛

### 鼠径ヘルニア

### 出て戻らない場合、手術

び出る病気で、「脱腸」とも言われています。

立つと膨らみ、寝ると消える「出たり入ったり」が典型的症状です。個人差はありますが、鼠径部の穴が大きくなって、睾丸たん丸に下がるまでには数カ月から数年かかります。

腸が腹壁の穴から外に出ると、痛みや不快感、便秘が現れ、症状を我慢すると次第に戻りづらくなります。さらに放置すると、急に腸が飛び出て戻らない嵌頓かんとんという状態になります。この際、飛び出た腸が腐る危険があり、緊急手術の適応となります。

治療は手術です。問題は大きくなる中で、どの時点で手術を受けるかです。ご質問の方は40代後半から膨らんで、約20年かけて大きくなったが、痛みはないとのことですから、嵌頓の危険はなく、手術の緊急性はありません。いつ手術を受けるかは、自身の判断で決めていいです。

手術はメッシュ状のシートで穴をふさぐ方法が一般的で、日帰りで行う施設もあります。外科の受診をお勧めします。